

エゾヒガン（野沢温泉）、シダレザクラ、小菅神社の参道に入ってソバカズラ、イヌタデ、カヤ、アカザ、ヤブガラシ、ツルデマリ、チャボガヤ（小群落を形成）、ヨメナ、コウヤワラビ、クサソテツ、イノコズナ、ナンバンカラムシ、サラシナショウマ、コウゾ、キツリフネ、サルトリイバラ、ジャガ、ヒメアオキ、クズ、チカラシバ、オオバコ、クマヤナギ、ツルツゲ、ノブドウ、クジャクシダ、ニワトコ、ワラビ、ゲンノショウコ、ヤブレガサ、ウリノキ、タチシオデ、ツタウルシ、ツルウメモドキ、ハナйкаダ、カラマツソウ、イカリソウ、ムカゴイラクサ、ミゾシダ、アブラチャン、ヌスビトハギ、ミヤマイラクサ、チヂミザサ、ヤクシソウ、イヌワラビ、ホウノキ、ハナйкаダ、コウモリカズラ、ウワバミソウ、ノブキ、リョウメンシダ、シノブカグマ、ホウチャクソウ、キケマン、ヤマアジサイ、ウバユリ、ツリフネソウ、コブナグサ、サトメシダ、トチノキ、ハウチワカエデ、モミジイチゴ、オオカメノキ、オオバクロモジ、マルバマンサク、ムラサキヤシオ、ツノハシバミ、コマユミ、サイゴクミツバツツジ、スノキ、アオダモ、ホツツジ、ノリウツギ、アズキナシ、オクモミジハグマ、ヒヨドリジョウゴ、ミヤマホウソ、エゾアジサイ、イヌシデ、オオバショリマ、サワシバ、奥社の小さな沢には白い花をつけた

ダイモンジソウの群落、サワダツ、ケトチノキ、シラネウラボ、オシダ、サカゲイノデ、ナンブアザミ、タイアザミ、マツカゼソウ、タイミンガサ等が分布する。

昼食後は奥社の裏側の西尾根に発達するキタゴヨウ林を調査することになった。松田、和田、伊藤によって植生調査が行なわれた。

調査結果は前頁の表の通りである。ブナ・マルバサンサク群落の低位単位のキタゴヨウ群落として位置づけられよう。

帰路はもと来た参道を下った。宿泊について御心配して下さった外様小学校の高橋勸先生にお礼を申し上げます。



尾根に発達するキタゴヨウ林

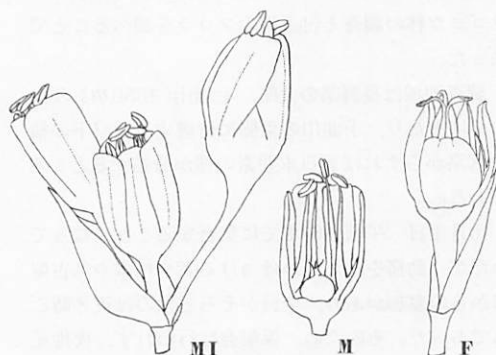
〔植物ニュース〕28. ヒメニラ *Allium monanthum* Maxim.

ヒメニラは1個まれに2個の花をつけるといわれどんな図鑑にもそのように記され、私も、自らの観察や標本の検定結果に基づいて「万有百科大辞典 植物」(小学館)にもその旨を記した。

ところが、ごく最近、岡谷の今井さんに諏訪地方には3~7個の花をつけるヒメニラは珍らしくないからと誘われ、富士見町の釜無川対岸大武川地籍および諏訪神社上社附近の2個所で、開花中の集団を観察することができた。ともに、標高約800m、北向きないし東北向きの斜面である。

大武川集団は、石灰岩混りの雑木林とその周辺にあった。1個体当りの花数は1~7個であったが、数百株のうち6個または7個の花をつけた個体は数えるほどであり、多くは2個または3個であった。上社集団は桑畑中にあり、1株当りの花数は1~4個であったが、4個のものは比較的少なかった。

ヒメニラは雌雄異株である。雌花には発達した雌しべの外に0~4個の雄しべがあるが、雄しべは明らかに花被より短かく、花糸は細い。雄花は発達し



ヒメニラの花 ×4
MI:雄株の花序 M:雄花 F:雌花

た6本の雄しべの外に退化した雌しべをもつ。この場合、花柱分枝はないか、非常に短くなっている。大武川では、雌株は花数1,2個に限られていたが、上社では1~3個の雌花をつける個体が多くみられた。ヒメニラの花数・性別・鱗茎の大きさ・稔性などの相互関係は、今後精査する必要がある。貴重な情報を下さった今井氏に深謝する。(清水建美)